

Ⅲ. 企業集団等の状況

1. 事業概況〔平成27年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）〕

(1) 業績

当期の世界経済は、米国において個人消費が増加したものの、中国をはじめとする新興国経済の景気が減速するなど、情勢が大きく変化いたしました。

わが国経済も、雇用・所得環境や非製造業を中心とした企業収益の改善傾向がみられたものの、個人消費や設備投資の回復に遅れがみられました。

損害保険業界におきましては、火災保険や自動車保険を中心に収入保険料が増加いたしました。

当社は、平成26年度からスタートいたしました中期経営計画「Next Challenge 2017」に基づき、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社（以下、「持株会社」といいます。）による経営管理のもと、ERM（統合的リスク管理）を推進し、巨大リスクに耐えうる財務基盤の構築に向け財務の健全性の確保と資本の効率性の向上に取り組みました。また、社員を真のプロフェッショナルに育成するための取組み「Be プロフェッショナル for all」により、最強の職場の創造に向け、「学ぶ責任」と「育てる責任」の実践を強化し、「自分を、職場を変えていく責任」を強く意識したさらなる役割変革を推進いたしました。

さらに、持株会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社及び三井住友海上あいおい生命保険株式会社との間で、事業・販売チャネルの再編、販売網・拠点（事務所）の集約、拠点の共同利用、第三分野長期契約の三井住友海上あいおい生命保険株式会社への移行、海外事業の再編、本社機能の再編などを順次実施し、機能別再編の取組みを一層進めました。

このような中、平成27年度の業績は次のとおりとなりました。経常収益は、保険引受収益が1兆9,123億円、資産運用収益が2,146億円、その他経常収益が95億円となった結果、2兆1,366億円となりました。一方、経常費用は、保険引受費用が1兆6,106億円、資産運用費用が325億円、営業費及び一般管理費が2,935億円、その他経常費用が84億円となった結果、1兆9,452億円となりました。

以上の結果、経常利益は、正味収入保険料が増収したものの、有価証券評価損が増加したことなどから、平成26年度に比べ77億円減少し、1,913億円となりました。経常利益に特別損益、法人税及び住民税などを加減した親会社株主に帰属する当期純利益は、価格変動準備金の繰入が減少したことなどから、平成26年度に比べ304億円増加し、1,357億円となりました。

(2) キャッシュ・フロー

平成27年度のキャッシュ・フローにつきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは、デリバティブ取引に伴う受入担保金が減少したことなどにより平成26年度に比べ919億円減少し、1,281億円となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出などにより平成26年度に比べ676億円減少し、△2,380億円となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入れによる収入などにより平成26年度に比べ2,763億円増加し、2,735億円となりました。これらの結果、平成27年度末の現金及び現金同等物は、平成26年度末より1,486億円増加し、6,148億円となりました。